

ソフトバイオマスからの燃料用エタノール製造プロセスの開発研究

地球温暖化対策の一手段としてバイオマスからの燃料用エタノールの生産が注目されており、世界ではすでにデンプン質系や糖質系（スクロースやグルコース、フラクトース）バイオマスからエタノールが大量に製造されています。しかし食糧と競合することから、セルロース系バイオマスからの燃料用エタノール生産技術の開発が緊急の課題となっています。中国では毎年約 7 億トンもの農産物系わら類が排出され、約 3 億トンもが耕作地で焼却され、大きな環境汚染を引き起こしています。

そこで、経済産業省の平成 20 年度提案公募型開発支援事業で、北京大学・熊本大学・崇城大学の 3 大学が共同して農産物系わら類、特にトウモロコシのわら（コーンストーバと呼ばれる。）からの燃料用エタノール生産を実用化するために、2 年間の開発研究を実施してきました。その成果を下記の要領で報告させていただきますので、ご参加の程、お願いいたします。

日時：2010年2月26日（金）13時30分から

場所：熊本大学イノベーション推進機構ベンチャー棟会議室

13時30分	開会の挨拶	NEDO	白石
13時50分	成果報告		
13時50分	基礎研究（竹からのバイオエタノール生産）	熊本大	木田
14時20分	実証試験結果報告（コーンストーバからのバイオエタノール生産）	北京大	湯
15時20分	補完研究	熊本大	木田
15時40分	キシロース発酵能を有する酵母の育種	崇城大	赤松
16時20分	今後の展開	北京大	呉
17時00分	総括	エネ総研	山田
17時20分	閉会の挨拶	NEDO	白石

本セミナーは公開となりますので、参加ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

セミナー参加申込書

下記にご記入のうえ、お申し込みはE-mailもしくはFaxでお願いいたします。

(E-mail, higashi@chem.kumamoto-u.ac.jp; Fax, 096-342-3668.)

氏名	所属・役職	電話連絡先	メールアドレス